



当会の第1回セミナーは、予定通り3月10日、百有余名の参加を得て盛大に開催された。

会は安立代表理事の発会挨拶の後、川口順子講師の広い国際的な活動経験をもとに、日本は企業、車等の公害防止を主とした考え方に対し、欧米は自然の生態系を主とした考え方の違いを判り易くご講義戴いた。

引き続き、大気環境問題について、田中郁三講師より、大気環境の自然要因と人為要因について、宇宙規模を含めた興味深い講義がなされた。

司会の平山代表理事代りが、「お約束通り、質疑応答、意見交換に時間をさいている」むね話されるや、早速、藤田慶喜氏（同氏については3面W/Gについての項参照）が、日本の技術はダントツで、NGOが大きな存在になっている。環境問題に対しては「右脳」を使うような発想がないといけない、と口火をきられた。

続いてドイツのマックスプランク研究所におられた、東海大学内田裕久教授が、日本人はどうして、困っていることをなかなか意思表示しないのか。お上から指導されればやるのではなく、素直に一人一人の問題としてとらえきちんと主張しないと、国が何を変えても駄目だと力説された。

東大名誉教授の米田幸夫東海大教授が川口先生との考え方の違いを述べられ、物の見方には色々あると痛感した。また、早大文学部の鈴木陽子教授が、福祉問題との関連を話され、原子力委員長代理の伊原義徳氏は、原子力は世界の1次エネルギーの7%位を賄って居り、廃棄物は1万tで、CO2の年間200億tと比べて非常に少なく、放射線の遺伝的影響を残すこともなく環境問題の改善に可成り役に立っているとの見解を表明。

綜研化学（株）中島敏相談役は中国の環境をどうお手伝いすべきかについて言及され、SRIインターナショナルの池田尊ディレクターは、環境という問題は身近かなものから解決、あるいは考えて行くことも大切等、続々と意見を述べられ両講師共々会場は真剣な熱気に包まれ、充実したセミナーとなった。引き続きなごやかな懇親パーティーで交流を深め、20時過ぎ、次回を期待して散会した。